

【ご参考情報】

全国の育児中のママ・パパ約900名に聞いた 「キャッシュレス・キャッシュレス教育に関する調査」

楽天ペイメント株式会社（本社：東京都港区、代表取締役社長：中村 晃一、以下「楽天ペイメント」）は、楽天株式会社が提供するママ・パパにうれしい、登録&利用無料の会員プログラム「楽天ママ割」（注）の会員912名に対し、2020年5月20日（水）に「キャッシュレス・キャッシュレス教育に関する調査」をインターネットで実施しました。今回の調査は、「楽天ママ割」に登録し、0歳（未就学児）から18歳（高校生）の子どもを持つ全国の912名の方に回答いただきました。

（注）出産予定日または子どもの誕生日を登録すると、楽天グループで使える割引クーポンやさまざまな特典が受けられる、妊娠中や子育て中のママ・パパを対象とした無料プログラム。

■ご自身に関するアンケート■

【考察】

●子育て世代は「キャッシュレス支持派」が約7割。キャッシュレス決済サービスを利用する一番の理由は「ポイント等が付与されお得だから」

子育て世代に、キャッシュレス支持派・現金支持派かを聞いたところ、「キャッシュレス支持派」が約7割（65.5%）、続いて「現金支持派」（12.6%）、「どちらでもない」（21.9%）という結果となった。キャッシュレス決済サービスを利用する理由（複数回答）を聞いたところ「ポイント等が付与されお得だから」（92.1%）が最も高く、ポイント付与がキャッシュ決済のメリットと捉えられている様子がうかがえた。

●マイナポイント事業を「理解していない」人は8割以上

マイナポイント事業をどれくらい理解しているかを聞いたところ、「理解している（「とも理解している」と「まあまあ理解している」の合計値）」は2割（15.9%）に満たない結果となった。一方、「理解していない（「名称を聞いたことはあるが、具体的には理解していない」「あまり理解していない」「まったく理解していない」の合計値）」は8割以上（84.1%）だった。

●子どもにキャッシュレス決済サービスと現金を両方使わせたいと思う人は約6割。キャッシュレス決済サービスの利点は「現金に比べて携帯しやすく無くしづらいこと」

子どもにキャッシュレス決済サービスを使わせたと答えた人に対して、「キャッシュレス決済サービス・現金では、どちらを子どもに使わせるのが良いと思うか」と聞いたところ、「キャッシュレス決済サービスと現金を両方使わせる」（63.6%）が最も多かった。キャッシュレス決済サービスを使わせたと良かったこと（複数回答）を聞くと、「現金に比べて携帯しやすく無くしづらいこと」（53.3%）がトップだった。

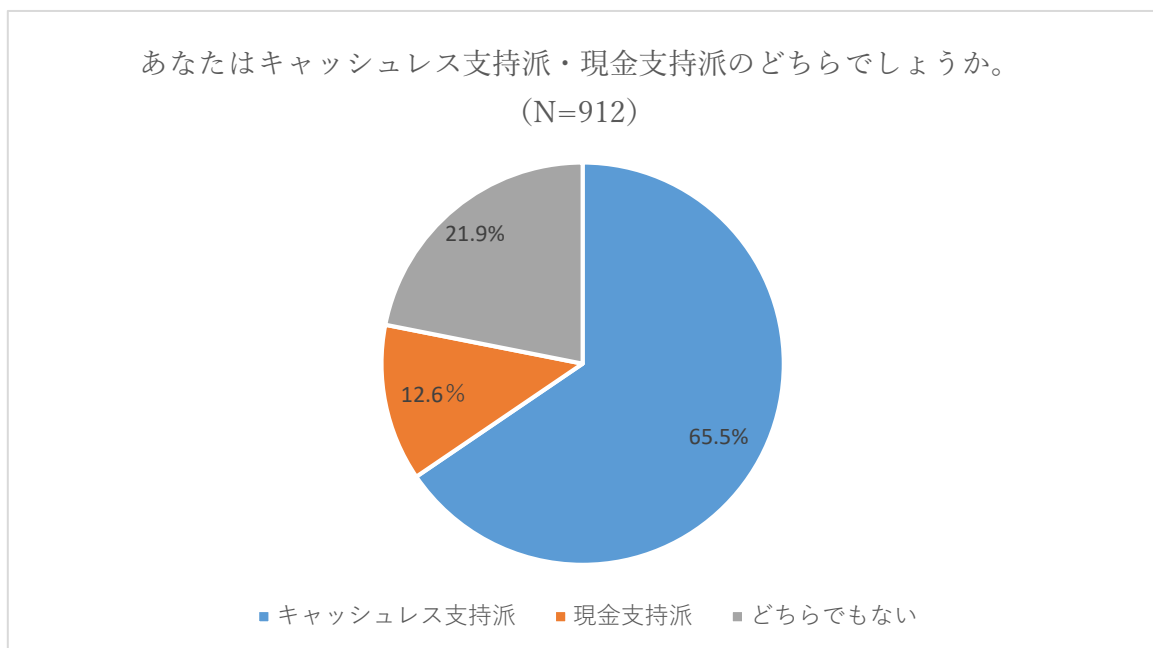
●子どもにお金について教育したいと思う人は約9割。一方、教育が出来ていない人は6割も

子どもにキャッシュレス決済を含む、お金の仕組みや管理について教育したいかを子育て世代に聞いたところ、「思う（「とても思う」と「少し思う」の合計値）」が約9割（85.7%）だった。一方、キャッシュレス決済を含む、お金の仕組みや管理について、子どもへ説明および教育ができているかを聞いたところ、「できていると思わない（「あまりできていると思わない」と「全くできていると思わない」の合計値）」が6割以上（63.5%）だった。

【調査結果】

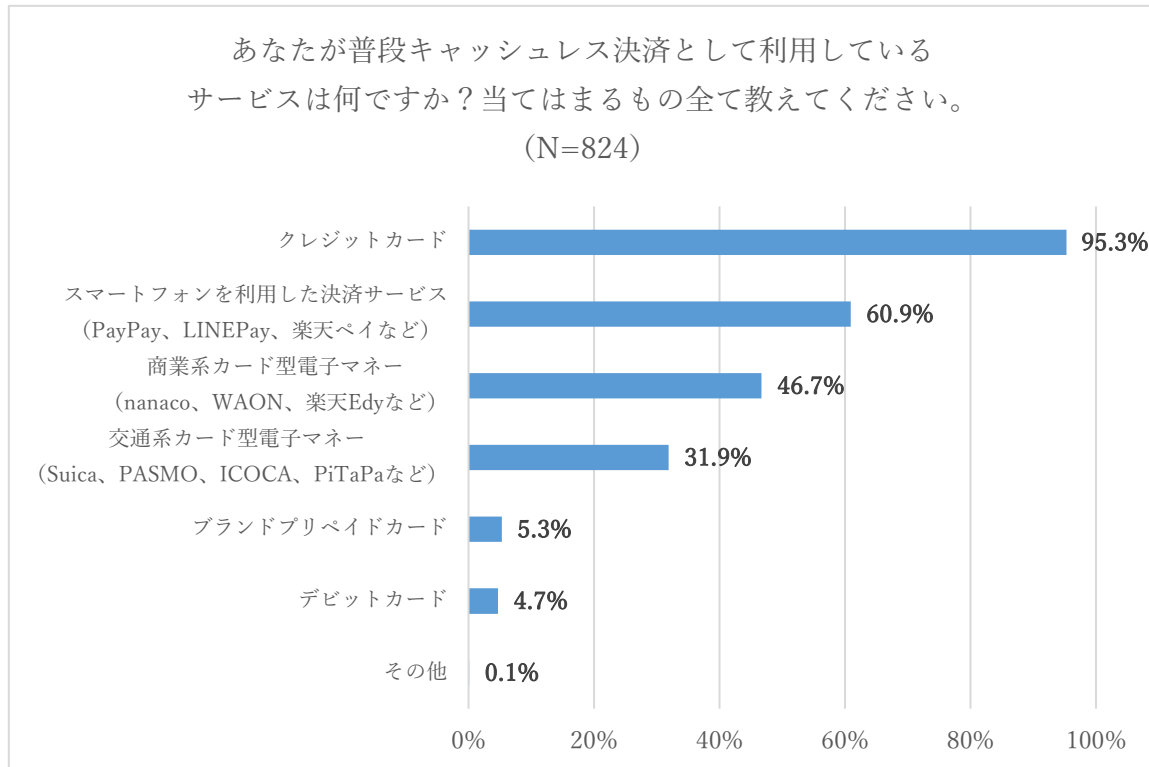
子育て世代は「キャッシュレス支持派」が約7割

キャッシュレス支持派・現金支持派かを聞いたところ、「キャッシュレス支持派」が約7割（65.5%）となり、「現金支持派」（12.6%）、「どちらでもない」（21.9%）よりも多い結果となった。



普段利用するキャッシュレス決済サービスの中で、1位は「クレジットカード」、2位が「スマートフォンを利用した決済サービス」

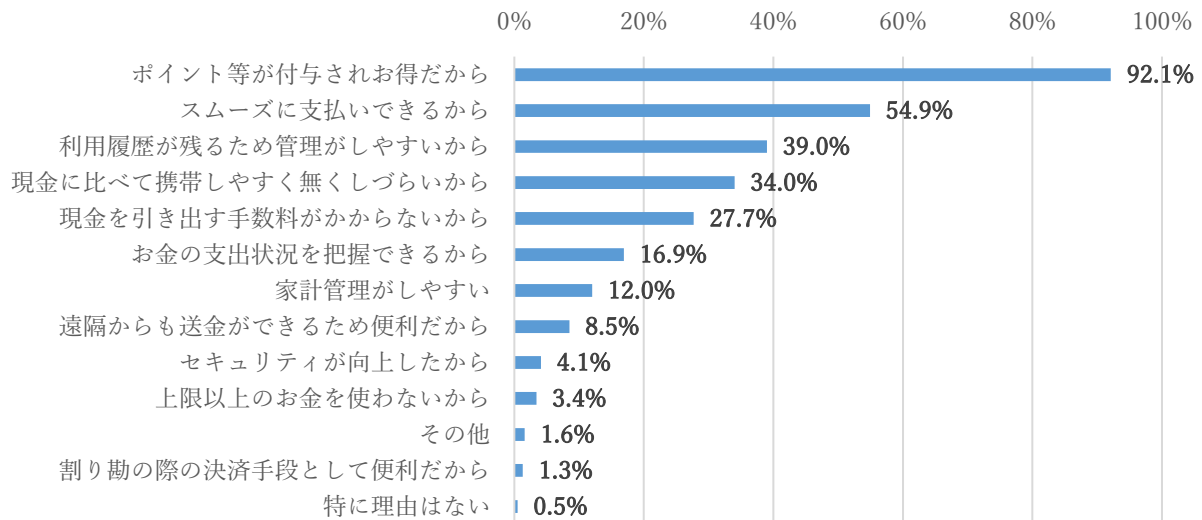
普段利用しているキャッシュレス決済サービス（複数回答）を聞いたところ、「クレジットカード」（95.3%）の回答がトップとなった。次いで「スマートフォンを利用した決済サービス（楽天ペイ、PayPay、LINEPay など）」（60.9%）、「商業系カード型電子マネー（楽天E d y、nanaco、WAON など）」（46.7%）、「交通系カード型電子マネー（Suica、PASMO、ICOCA、PiTaPa など）」（31.9%）という結果となった。



キャッシュレス決済サービスを利用する一番の理由は「ポイント等が付与されお得だから」

前問で選択したキャッシュレス決済サービスを利用する理由（複数回答）を聞いたところ「ポイント等が付与されお得だから」（92.1%）が最も多く、ポイント付与がキャッシュ決済のメリットと捉えられている様子が見えてきた。次いで、「スムーズに支払いできるから」（54.9%）、「利用履歴が残るため管理がしやすいから」（39.0%）、「現金に比べて携帯しやすく無くしづらいから」（34.0%）が続いた。

前問で選択したキャッシュレス決済のサービスを利用する理由を教えてください。(N=824)



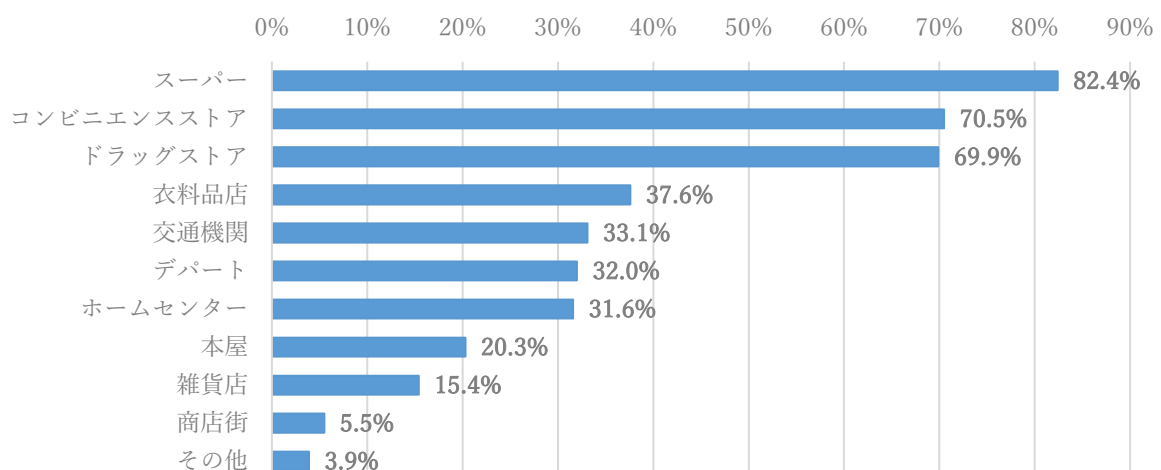
子育て世代がキャッシュレス決済サービスを利用する場所のトップは「スーパー」

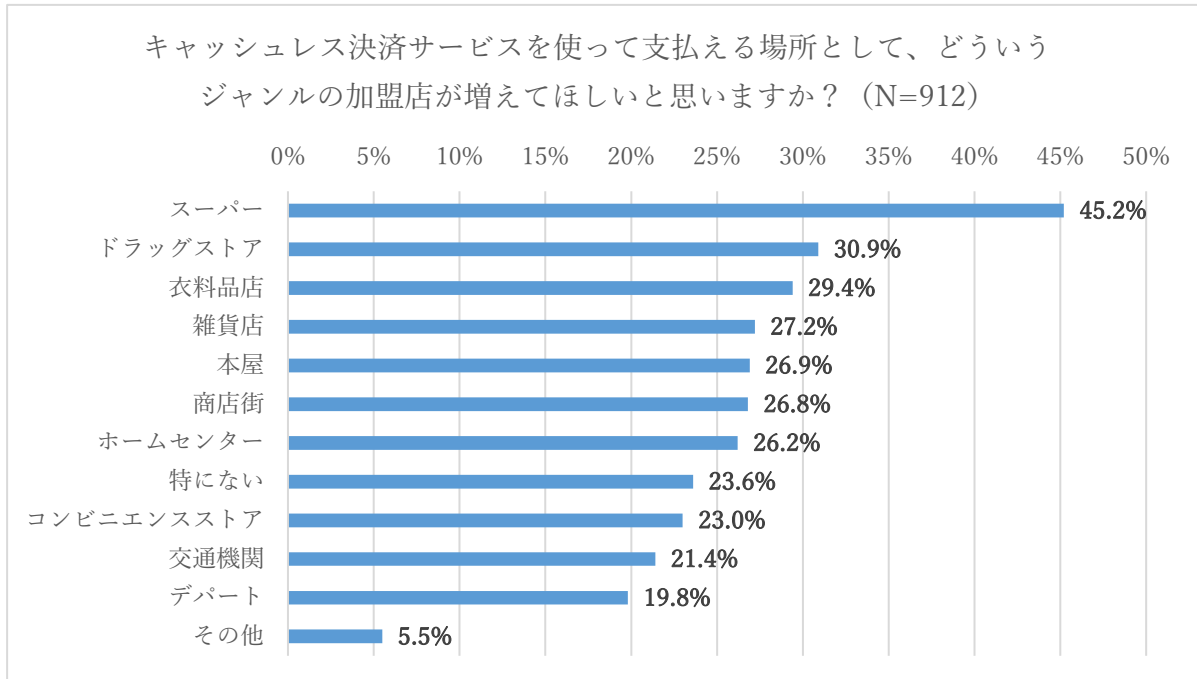
普段、キャッシュレス決済サービスで決済することが多い場所（複数回答）を聞いたところ、1位「スーパー」（82.4%）、2位「コンビニエンスストア」（70.5%）、3位「ドラッグストア」（69.9%）が続いた。

また、今後キャッシュレス決済サービスが利用できるようになって欲しい場所（複数回答）を聞いたところ、「スーパー」（45.2%）が最も高く、次いで「ドラッグストア」

（30.9%）、「衣料品店」（29.4%）が続いた。子育て世代においては、生活圏内にある場所での利用頻度や需要が高いことが分かった。

普段、キャッシュレス決済サービスを使って支払うことが多い場所を教えてください。(N=824)

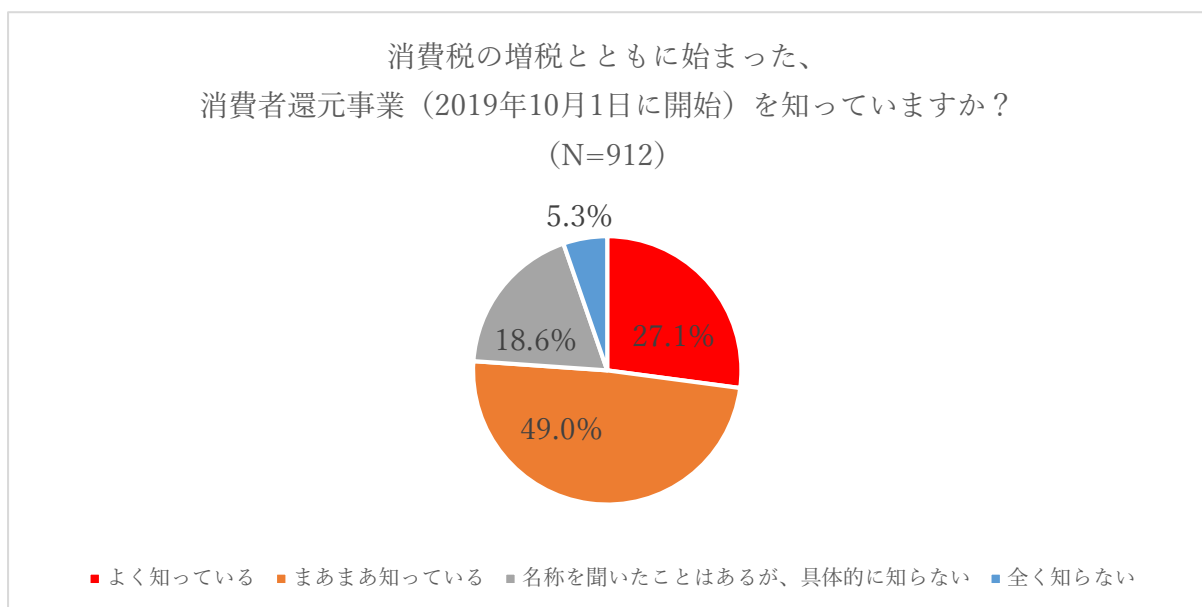




消費者還元事業以降に、キャッシュレス決済サービスの利用頻度が「増えた」人は約8割

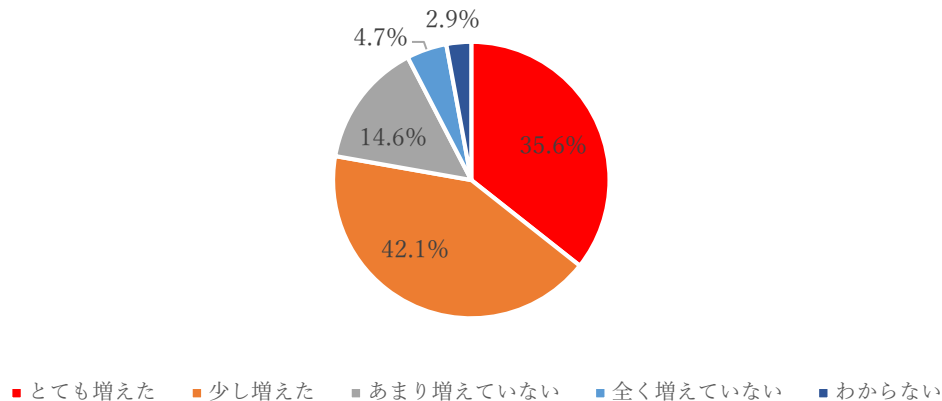
消費税の増税とともに始まった消費者還元事業（2019年9月～2020年6月実施）について知っているかを聞いたところ、「知っている（「よく知っている」「まあまあ知っている」の合計）」と答えた人は約8割（76.1%）だった。子育て世代においては、「消費者還元事業」の認知度は高いと言える。

また、消費者還元事業について「全く知らない」と答えた人を除いた対象者に、消費者還元事業開始前と比較して、キャッシュレス決済サービスの利用頻度が増えたかどうかを聞いたところ、「増えた（「とても増えた」と「少し増えた」の合計値）」と回答した人は約8割（77.7%）となった。一方、「増えていない（「あまり増えていない」と「全く増えていない」の合計値）」と回答した人は、1割未満（7.6%）だった。



消費者還元事業開始前と比較して、対象店舗での購入において
キャッシュレス決済サービスを使って支払う頻度が増えたか？

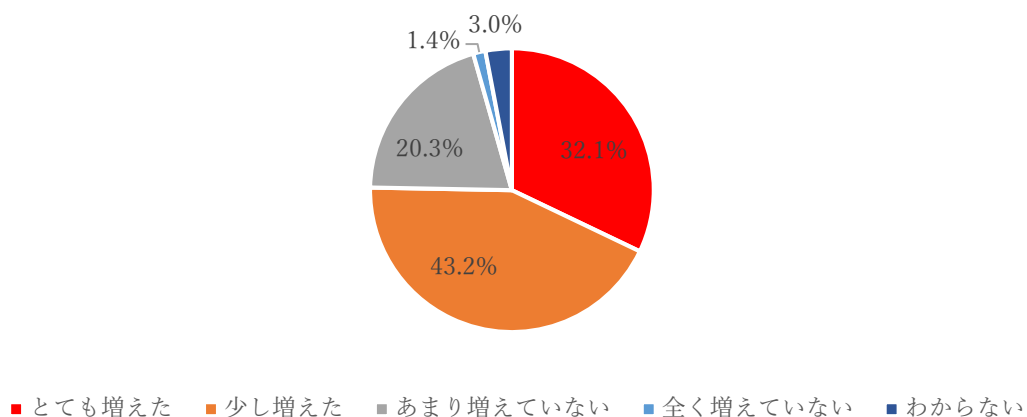
(N=864)



消費者還元事業を機に、ポイントを活用する頻度が「増えた」人は約8割

キャッシュレス決済サービスの利用頻度が「全く増えていない」、「わからない」と答えた人を除いた対象者に、消費者還元事業開始前と比較して、還元されたポイントを活用する頻度が増えたかを聞いたところ、「増えた（「とても増えた」と「少し増えた」の合計値）」と回答した人は約8割（75.3%）だった。一方、「増えていない（「あまり増えていない」と「全く増えていない」の合計値）」は約2割（21.7%）となり、子育て世代は、消費者還元事業を機にポイントをより有効活用していることがわかった。

消費者還元事業（ポイント還元事業）開始前と比較して、
還元されたポイントを活用する頻度が増えましたか。（N=798）

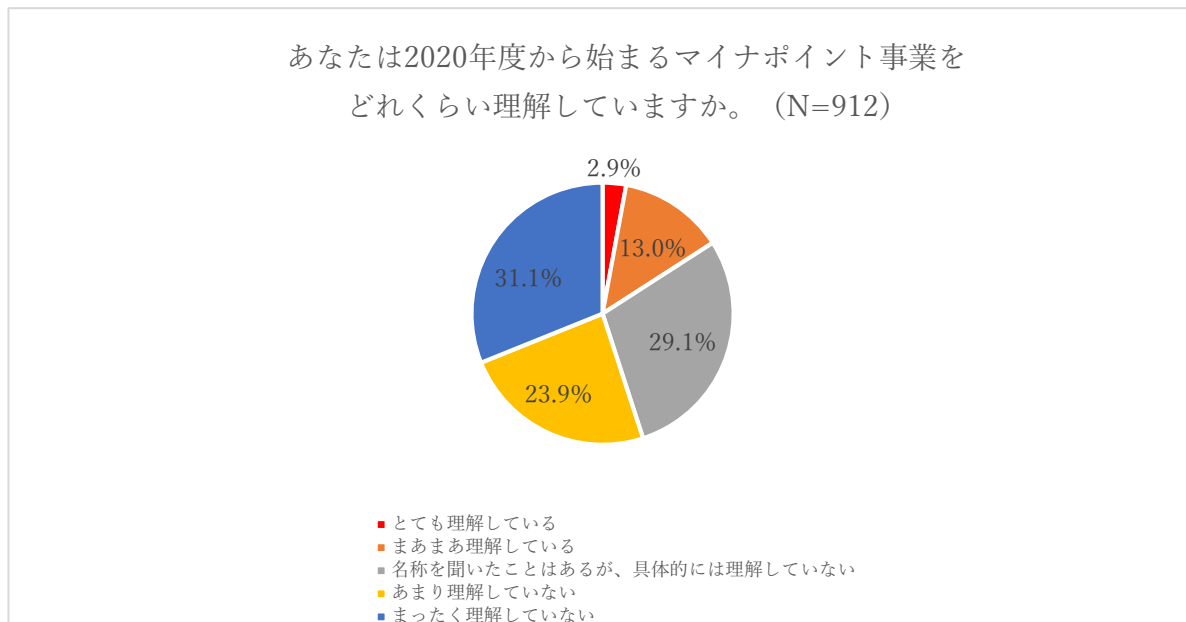


マイナポイント事業を「理解していない」人は約6割

一方、2020年9月から始まったマイナポイント事業をどれくらい理解しているかを聞いたところ、「理解している（「とても理解している」と「まあまあ理解している」の合計値）」は2割（15.9%）に満たない結果となった。一方、「理解していない（「名称を聞いたことは

あるが、具体的には理解していない」「あまり理解していない」「まったく理解していない」の合計値)は8割以上(84.1%)だった。

※マイナポイント事業とは：マイナポイントの活用により、消費の活性化、マイナンバーカードの普及促進、官民キャッシュレス決済基盤の構築を目的として2020年度に実施されている事業です。

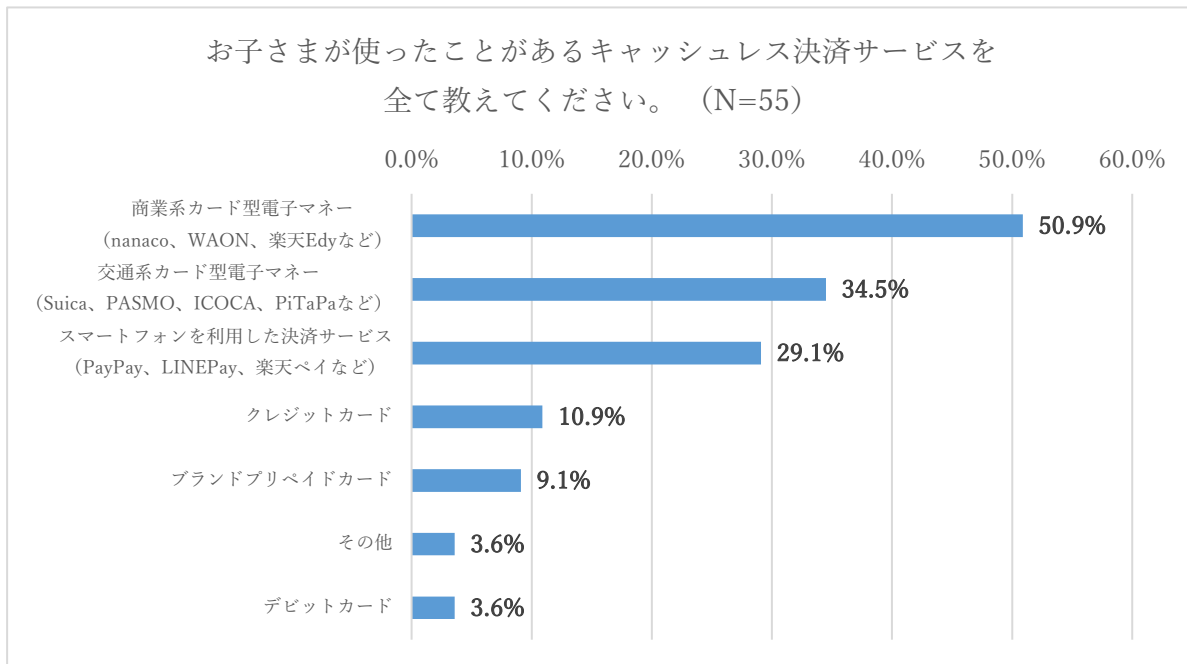


■子どもに関するアンケート■

子どもに使わせたことがあるキャッシュレス決済サービスは「商業系カード型電子マネー」がトップ。スマホアプリ決済サービスも約3割の子供が利用経験あり

子どもにキャッシュレス決済サービスを使わせたことがあると答えた人に対して、使わせたことがあるキャッシュレス決済サービスをたずねたところ、「商業系カード型電子マネー(楽天Edy、nanaco、WAONなど)」(50.9%)がトップとなった。次いで「交通系カード型電子マネー(Suica、PASMO、ICOCA、PiTaPaなど)」(34.5%)、「スマートフォンを利用した決済サービス(PayPay、LINEPay、楽天ペイなど)」(29.1%)が続いた。

比較的身近なカード型電子マネーが上位を占めたが、急速に利用者が拡大するスマホアプリ決済サービスもすでに約3割の保護者が、子どもに使わせたことがあることが分かった。



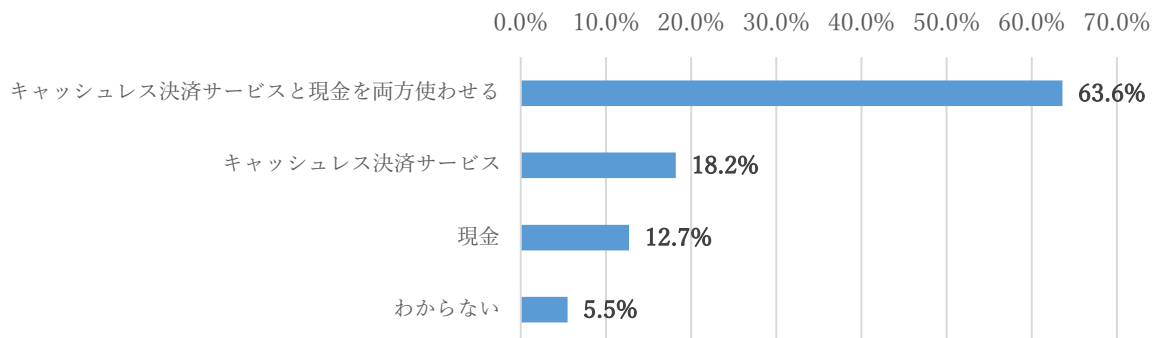
キャッシュレス決済サービスと現金を両方使わせたい子育て世代は6割。キャッシュレス決済サービスの利点は「現金に比べて携帯しやすく無くしづらいこと」

子どもにキャッシュレス決済サービスを使わせたことがあると答えた人に対して、「キャッシュレス決済サービス・現金では、どちらを子どもに使わせるのが良いと思うか」を聞いたところ、「キャッシュレス決済サービスと現金を両方使わせる」(63.6%)が最も多かった。次いで、「キャッシュレス決済サービス」(18.2%)、「現金」(12.7%)が続き、現金のみよりも、キャッシュレス決済サービスを使うことにメリットを感じている保護者が多いことが分かった。

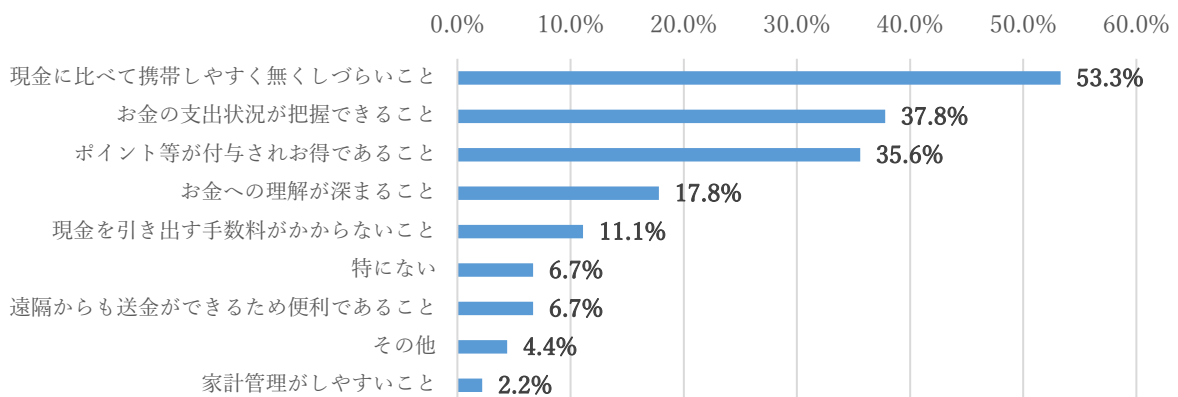
「キャッシュレス決済サービス」または、「キャッシュレス決済サービスと現金を両方使わせる」ことが良いと答えた人にキャッシュレス決済サービスを使わせたことで良かったこと(複数回答)を聞くと、「現金に比べて携帯しやすく無くしづらいこと」(53.3%)がトップだった。次いで、「お金の支出状況が把握できること」(37.8%)、「ポイント等が付与されお得であること」(35.6%)が続いた。

子どもにキャッシュレス決済サービスを使わせたことがあるかについて「いいえ」と答えた人に、今後、キャッシュレス決済の各種サービスを子どもに使わせたいと思うかどうかを聞いたところ、「思う(「とても思う」と「少し思う」の合計値)」は33.8%、「思わない(あまり思わない」と「全く思わない」の合計値)」は43.2%だった。

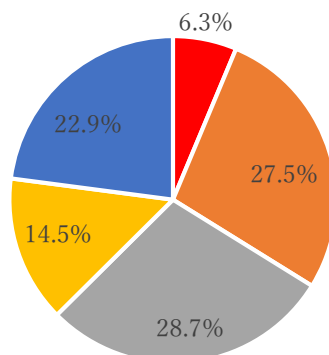
子どもにキャッシュレス決済を使わせたことがある方：
あなたは、キャッシュレス決済サービスまたは現金では、
どちらをお子さまに使わせるのがよいと思いますか。（N=55）



子どもにキャッシュレス決済を使わせたことがある方：
キャッシュレス決済サービスを使わせたことで良かったことは？
（N=45）



子どもにキャッシュレス決済を使わせたことがない方：
今後、キャッシュレス決済の各種サービスをお子さまに使わせたいと思いますか。（N=835）



■ とても思う ■ 少し思う ■ あまり思わない ■ 全く思わない ■ わからない

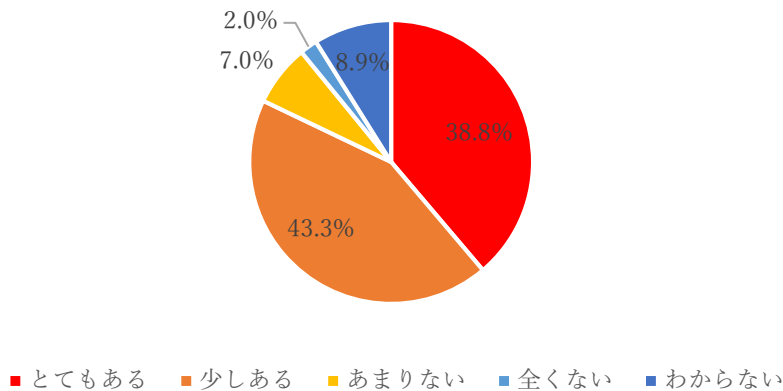
子どもにキャッシュレス決済サービスを使わせることに対して不安がある人は8割以上。「使いすぎ」「お金の管理」「紛失」に対する不安があがった

キャッシュレス決済サービスを子供に使わせることに対して不安があるかどうかを聞いたところ、「ある（「とてもある」と「少しある」の合計値）が8割以上（82.1%）だった。

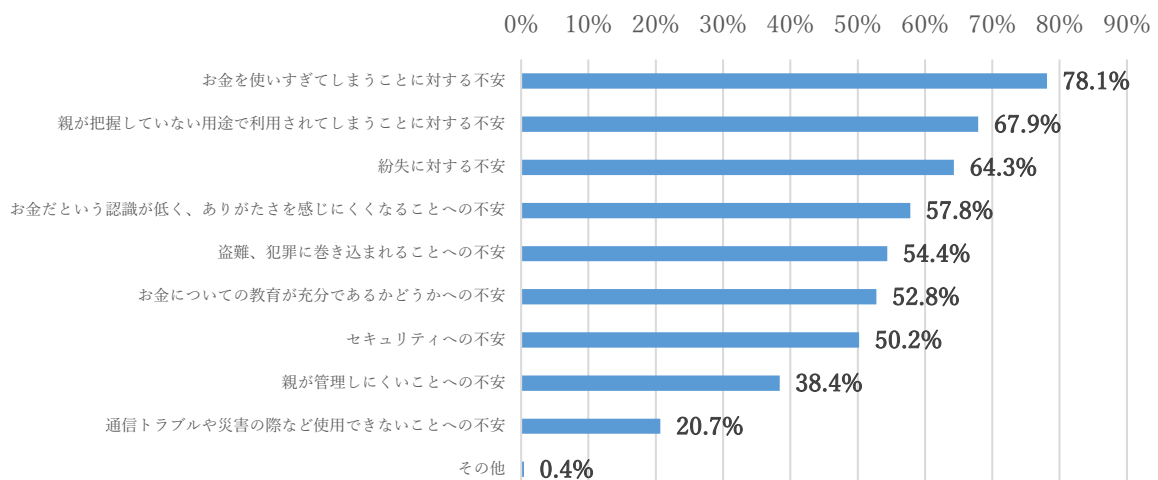
不安が「全くない」あるいは「わからない」と答えた人を除き、子どもにキャッシュレス決済サービスを使わせることに対する不安を聞いたところ、「お金を使いすぎてしまうことに対する不安」（78.1%）がトップだった。次いで、「親が把握していない用途で利用されてしまうことに対する不安」（67.9%）、「紛失に対する不安」（64.3%）が続いた。

キャッシュレス決済サービスのメリットとしてあがっていた「お金の支出状況が把握できること」「現金に比べて携帯しやすく無くしづらいこと」と類似の内容が、子どもにキャッシュレス決済を使わせることに対する不安要素としてもあがった。

お子さまにキャッシュレス決済の各種サービスを使わせることに対して不安はありますか。（N=912）

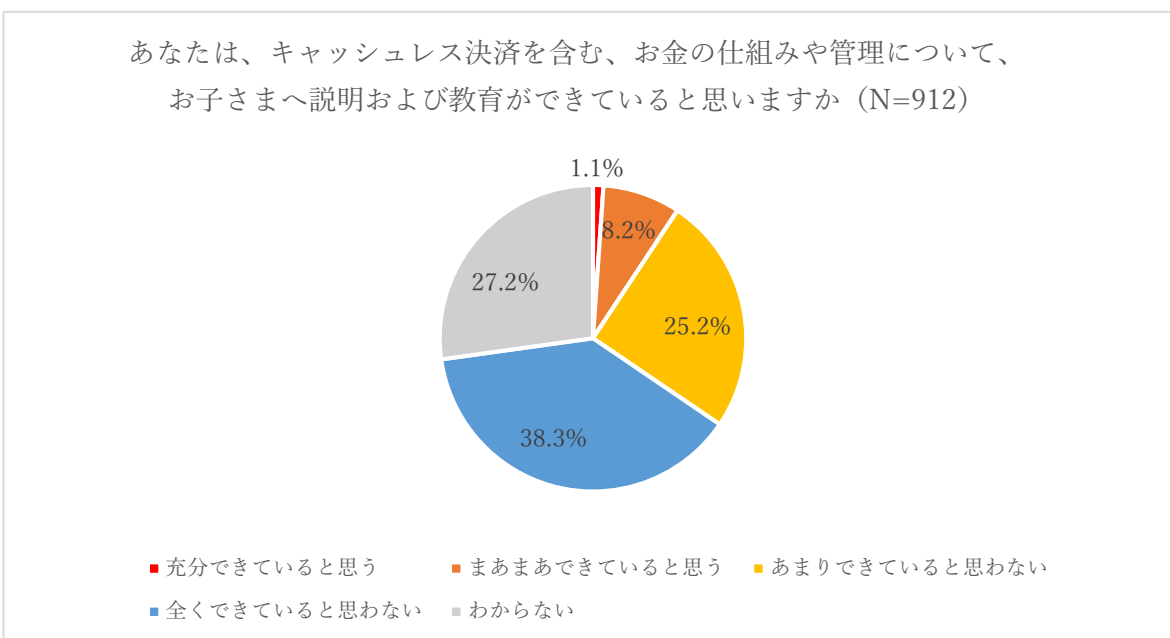
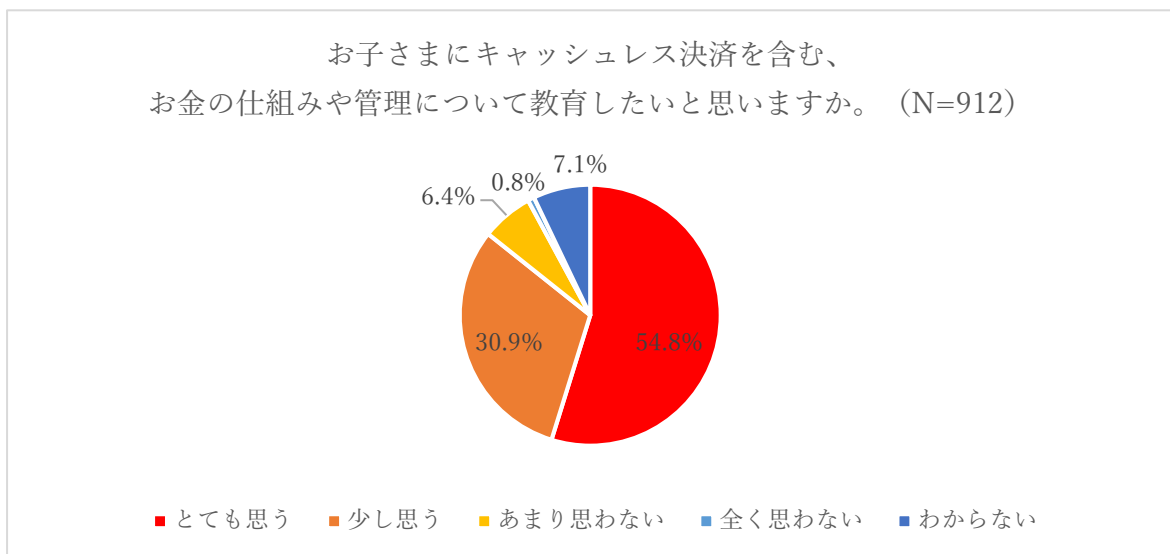


不安が「全くない」あるいは「わからない」と答えた人を除く：
お子さまにキャッシュレス決済の各種サービスを使わせること
に対する不安を教えてください。（N=813）



お金について子どもに教育したいと思う人は約9割。一方、お金の教育が出来ていないと思う人は6割も

子どもにキャッシュレス決済を含む、お金の仕組みや管理について教育したいと思うかどうかを聞いたところ、「思う（「とても思う」と「少し思う」の合計値）」が約9割（85.7%）だった。一方、キャッシュレス決済を含む、お金の仕組みや管理について、子どもへ説明および教育ができているかを聞いたところ、「できていると思わない（「あまりできていると思わない」と「全くできていると思わない」の合計値）」が6割以上（63.5%）だった。

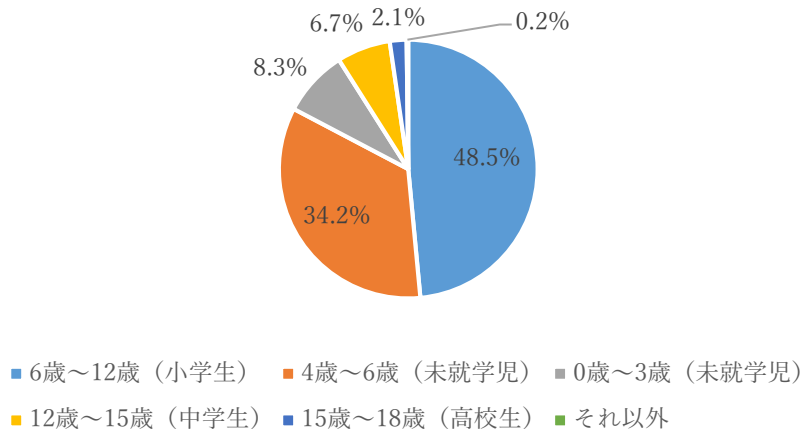


お金に関する教育を始める年齢は「6歳～12歳（小学生）」、次いで「4歳～6歳（未就学児）」。学校教育よりも「家族（親や祖父母などから説明）」による教育が7割以上を占める

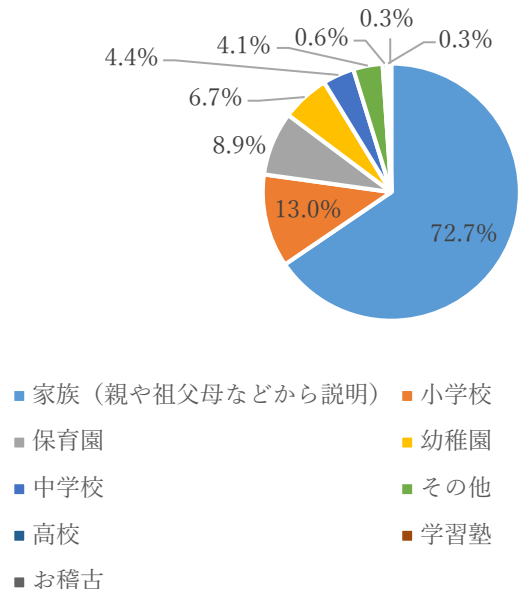
お金の仕組みや管理について、いつ頃から子どもに教育して理解させたいかを聞いたところ、「6歳～12歳（小学生）」（48.5%）、次いで「4歳～6歳（未就学児）」（34.2%）が続く

た。また、キャッシュレス決済サービスを含むお金の仕組みや管理について、普段どこで教えているかについては、「家族（親や祖父母などから説明）」（72.7%）が最も高かった。次いで、「小学校」（13.0%）、「保育園」（8.9%）が続いた。

あなたは、お金の仕組みや管理について、いつ頃からお子さまに教育して理解させたいと思いますか。（N=912）



キャッシュレス決済サービスを含むお金の仕組みについて
普段どこで教えていますか？（N=315）



【調査概要】

調査エリア：全国

調査対象者：0歳（未就学児）から18歳（高校生）のお子様を持つ「楽天ママ割」メンバー

回収サンプル：912サンプル

調査期間：2020年5月20日（水）



調査実施機関：楽天ペイメント株式会社

以上

【お問い合わせ先】

楽天ペイメント株式会社 広報チーム

E-mail: pr-payment@mail.rakuten.com